

2015 年度政治経済学 1 模範解答（暫定版）

これはあくまでも要点だけを書いた仮の模範解答です。より詳しい模範解答は後日公開いたします。なお、採点を通じて、模範解答の採点ポイントが変わってくるといふこともありえます。

[1] どの人類社会にも共通な、生産力の上昇の主要要素を、(個人的・社会的)労働過程の契機に即して三つ挙げ、そのそれぞれについて、現代的産業においてどのように実現されているのか、具体例を挙げて説明せよ。

[3つの主要要素については『3. 人間と労働』の「生産力の上昇の主要要素」のスライドを参照。現代的産業における実現については『7. イノベーションの構成要素』の「4. 科学的知識の意識的計画的適用」のセクション全体を参照]

どの人類社会にも共通な、生産力の上昇の主要要素は、労働の媒介性に依拠して、定義することができる。具体的には以下の三つ。

1. 労働力自身の向上
 - 現代的産業においては、特に科学的知識を学習によって手に入れた知識労働力という複雑労働力〔具体例は省略〕
2. 労働手段の使用と向上
 - 現代的産業においては、特に科学的知識を適用した機械設備〔具体例は省略〕
3. 社会関係の利用
 - 現代的産業においては、機械設備の客体的編成に依拠して必然的に編成された協業・分業〔具体例は省略〕

[2] 市場社会の成立における、(1)本来の私的生産の限界と(2)資本主義的生産の意義とについて、具体例を挙げて説明せよ。

[『4. 市場社会のイメージ』の「本来の私的生産の限界(2)」のスライド、『5. 資本主義社会のイメージ』の「1. 資本主義社会の特徴」のセクション、ピンポイントには「従業員社会の歴史的意義」を参照]

市場社会とは、社会的生産物の圧倒的大部分が市場に向けて生産され、市場で流通しているような社会である。このような社会が成立するのに際して、

1. 本来の私的生産：本来の私的生産とは私的個人による生産、つまり自営業者の生産であって、これこそが市場社会が想定しているものである。本来の私的生産は賃金労働者を雇用せず、したがって人口の圧倒的大部分の生活を市場に依存させないという点で、市場を社会全体に広げる際に限界を持つ。〔具体例は省略〕
2. 資本主義的生産：資本主義的生産とは資本主義的営利企業による生産であって、資本主義的営利企業は利潤最大化のために多数の賃金労働者を雇用する。このことによって、人口の圧倒的大部分が賃金労働者として、労働力市場で自分の

労働力の売り手になり、消費手段市場で消費手段の買い手になり、こうして市場に依存するようになる。〔具体例は省略〕

[3] 現代社会の経済活動における賃金労働者の社会的な自由について、(1)市場社会の原理のレベルと(2)資本主義社会の原理のレベルとを比較し、具体例を挙げて説明せよ。

〔『4. 市場社会のイメージ』の「1.1 形式的自由」のセクション、および『5. 資本主義社会のイメージ』の「市場社会 vs.資本主義社会(1)個別的主体の原理」のスライドを参照〕

現代社会において賃金労働者にとっては以下の正反対の原理が両立している。

1. 市場社会の原理のレベル：市場社会の原理においては、どの人格も市場では互いに暴力を用いることなく、互いの自由意志だけで契約を結び交換する。もちろん、賃金労働者も、消費手段市場だけではなく、労働力市場でも、このような自由を享受している。但し、この自由は形式的な自由であって、市場の内部だけで通用するものに過ぎない。〔具体例は省略〕
2. 資本主義社会の原理のレベル：それでは、資本主義営利企業の内部ではどうなっているのかと言うと、資本主義社会の原理においては、資本主義的営利企業の内部では、企業の業務命令の下で強制的に労働する。従って、不自由こそが資本主義社会の原理である。〔具体例は省略〕

[4] 資本主義的な市場社会を想定する。社会的労働の契機としての、資本主義的生産における計画を、(1)個人的労働の契機としての構想、(2)権威、(3)市場の原理との関連において、説明せよ。

〔『2. 人間と労働』の「1.1 構想の実現」のセクション全体、『5. 資本主義社会のイメージ』の「市場社会 vs.資本主義社会(2) 全体編成の原理」、『7. イノベーションの構成要素(1)』の「2.1 計画と権威」、『7. イノベーションの構成要素(2)』の「イノベーションの結末」を参照〕

1. 構想との関連：そもそも個人的労働において、誰しも実際に生産する前に頭の中で生産している。これが構想である。社会的労働においては、〔ただ単にだれもが自分の労働について構想を持っているだけではなく、——この部分は無くても OK〕全体についてもまた構想が成立していなければならない。これが計画である。そして、計画は、個々の労働者の外に会社の計画として存在しているのと同時に、全労働者に共有されていなければならない。〔具体例は省略〕
2. 権威との関連：社会的労働過程については、実際に生産する前に計画が成立していなければならないが、実際に生産している間は、個々の労働者の外にある会社の権威に従わなければならない。〔具体例は省略〕
3. 市場の原理との関連：このように、資本主義社会の原理では、企業の中では完全な計画経済が成立している。これに対して、市場社会の原理では、企業が参加している市場の中では無計画性が支配している。〔具体例は省略〕